

社会科学（経営学分野）における情報活用能力育成教育の授業モデル案

山梨学院大学 学習・教育開発センター 金子 勝一

【テーマ】身のまわりの社会的な問題の発見と解決策の検討

【授業概要】

国際社会は解決しなければならないさまざまな問題を抱えている。国連はこうした状況に対して持続可能な社会・地球をめざすべく SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) を示している。そこで、日本でも行政や企業は、気候変動の影響や少子高齢化・働き方改革・子育て支援等の問題を解決すべくさまざまな対策を講じている。一方で、国内外において、環境問題や教育格差・児童労働などの社会的問題が多様化・複雑化し、行政や企業等だけでは解決することが困難になっている。こうした背景により、顕在化・潜在化する社会的問題に対する問題意識や関心が高まっている。そのなかで、個人やグループが主体的に、ビジネス手法を用いて継続的に社会的問題を解決する取り組みとしてのソーシャルビジネスが注目されている。

本授業では、受講生の皆さんの身の周りで気になる社会的問題を考えてもらい（問題を発見し）、経営学の理論や枠組み、統計学の知識や ICT を活用して、気になる社会的問題を発見し解決するためのビジネス・モデルや事業計画を提案してもらおう。

【授業の到達目標】

- ・身の回りで気になる社会的問題にどのようなものがあるかを考え、グループで意見を出し合いながら、テーマを選定できる（到達目標A2）。
- ・テーマとして選定した社会的問題に対して、情報を収集し、現状分析・問題点を洗い出すことができる（到達目標A3）。
- ・経営学の理論や枠組みを基礎して問題解決の方法を検討することができる（到達目標A3）。
- ・設定した問題に対して、図書、文献、メディアの情報やオープンデータ（統計局 e-statや地域経済分析システム RESAS等）を収集し、表計算ソフトやデータ分析ソフトを活用して、整理・分析することができる（到達目標B1, C2-2）。
- ・グループ活動を通じて問題に取り組み、問題解決のためのビジネス・モデルまたは事業計画を提案し、実現可能性や採算性、継続性を含めて説明することができる（達成目標A3）。

【学修活動の詳細と対応する到達目標】

回	授業内容・学修活動	到達目標
1	<p><身の回りで気になる社会的な問題の選定></p> <ul style="list-style-type: none">・自分たちの身の回りで気になる社会的問題にどのようなものがあるか、なぜ解決しなければならないか等について、グループで意見を出し合いながら、テーマを選定できる。・社会的な問題に対して、情報を収集し現状分析・問題点を洗い出すことができる。	A2 A3
	<p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none">・各受講者は、身の回りで気になる社会的問題や解決したい問題について、事前に	

	<p>検討し、準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各受講者は、関心のある社会的問題に対して、情報を収集し、問題点を洗い出し、現状を分析する。 	
	<p>【授業の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ（3～5人）を作る。 問題発見・解決の枠組みに基づき、各メンバーは身の回りで気になる社会的問題や問題解決すべき関心事、問題意識について説明する。 各メンバーが提案したテーマについて、KJ法やブレインストーミングを活用し、メンバー相互で意見交換する。 その上で、テーマについて、重要性、緊急性、実現可能性などを考慮し、優先順位の高いテーマを1つ選定する。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 選定したテーマについて、現状を把握するために必要な情報を検討する。 図書、文献やテーマに関連するデータを調査・収集する。 	
2	<p><問題解決のための調査・分析①></p> <ul style="list-style-type: none"> 経営学の理論や枠組みを基礎として問題解決の方法を検討することができる。 設定した問題に対して、図書、文献、メディアの情報やオープンデータを収集し、表計算ソフトやデータ分析ソフトを活用して、整理・分析することができる。 	<p>A3 B1, C2-2</p>
	<p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定した問題に対して、図書、文献やテーマに関連するデータを収集する。 問題点や現状を明確にするために、収集した情報やデータを活用し、経営学の理論や枠組みを活用した解決方法を検討する。 表計算ソフトやデータ分析ソフトなどの情報ツールを活用して、収集したデータを分析する。 <p>【授業の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収集した情報やデータを定性的・定量的に分析する。 分析の結果に基づいて、グループのメンバー相互で問題点や解決方法につながることはないか検討・意見交換する。 経営学の理論（経営戦略やマーケティングの理論やフレームワークなど、学習したことを活用する）や枠組みを活用し、問題点や現状を明確化する。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で検討した解決手法や整理・分析した情報やデータを活用しながら、社会的問題解決のためのビジネス・モデルや事業計画をまとめる。 	

3	<p><問題解決のための調査・分析②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学の理論や枠組み（リーダーシップ論、動機づけ理論や財務分析など、学習したことを活用する）を基礎して問題解決の方法を検討する。 ・設定した問題に対して、図書、文献、メディアの情報やオープンデータを収集し、表計算ソフトやデータ分析ソフトを活用して、整理・分析することができる。 	A3 B1, C2-2
	<p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の実現可能性や採算性、継続性について、表計算ソフトを活用して分析する。 ・提案内容のビジネス・モデルまたは事業計画をグループのメンバー全員で、役割分担・協力してまとめる。 	
4	<p><社会的な問題に対する解決案の提案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を通して問題に取り組み、問題解決のためのビジネス・モデルまたは事業計画を作成し、実現可能性や採算性、継続性を含めて説明することができる。 	A3
	<p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション・ソフトを用いて、提案内容の発表資料を作成する。 <p>【授業の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各チームの社会的問題とその解決方法について発表する。 ・参加者全員で、各チームの提案内容についてプラス思考で意見交換する。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換の内容を取り入れて、提案内容を修正する。 	

【評価】

- ・本授業は、①各回の小テスト 30 点、②期末試験 30 点、③問題解決・発表 40 点とし、①～③の総合評価で採点し、合計点 60 点以上を合格とする。
- ・③については、発表内容および最終成果物の内容について、各グループ間による相互評価とする。